

ペルソナ5 オリジナル パレスもの

もぶ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

双葉パレス最速攻略後のジョーカー達怪盗団はメジエドへの対抗手段もなく、メメントスに潜る日々が続いていた。

そんなある日、一件の依頼が来る。

本編のネタバレは基本的に無し。

時系列の紹介程度なのでゲームプレイ済みまたはアニメ視聴者向け。

8月序盤からXデー前までの期間のみの予定。

目次

顔のない教祖

1

虎児を得るためには

10

顔のない教祖

その日怪盗団は双葉の目覚めを待つ日々を送っていた。

リーダーのジョーカーこと雨宮蓮はXデーの前に決着をつけたいと言い、今までにないほどハイペースでのパレス攻略を行った。

そのため、まだ8月にすら入っていないのに攻略が完了。

しかし双葉本人が自身のパレスで覚醒したことか、はたまた別の要因があるのか不明だがこんこんと眠りについたまま起きる気配がない。

取り敢えず今できることをしようと、メジエドへの対抗手段を探しながらメモントスでの依頼をしている。

「ん……？」

「おつ、新しい依頼か？」

SNSの通知にスマホを取り出すとモルガナも覗き込んできた。

『かなり切羽詰まってるみたいなんだけど……』という切り出しから始まる依頼の内容をまとめると、新興宗教にハマった母親を改心させてほしいという内容だった。

親類や友人に金を無心し新興宗教に注ぎ込むまでならともかく、ついに金欲しさに夫

や子供に生命保険をかけ始めたらしい。

依頼は身の危険を感じたターゲットの娘が自ら出したようだ。

「これは……早く対処しねーとヤバイんじゃないか？」

「そうだな」

仲間にアジト集合の連絡をし、消費アイテムの補充のために診療所へと向かう。

前回の急な探索でアイテムが尽きかけていた。

改心に必要な対象の名前を確認すると足早に行動し始める。

アジトに集まった仲間達に手短にターゲットの説明をする。

金の無心だけでもやや表情が固かったが、生命保険のくだりでターゲットの目的が解ると皆すつと表情が引き締まり同意してくれた。

「よーし！全会一致だな」

「ああ、怪盗団の腕の見せ所つてな！」

「流石に見逃せないな」

「保険金目当ての殺人だなんて許されないわ」

「うん、だから改心させちやおう」

「行こう」

全員で渋谷に移動してメメントスに侵入し、ターゲットの位置をモルガナに探しても

らう。

道中のシャドウとの戦闘はなるべく回避し先を急いだ。

そしてついにメモントスのターゲットの存在を主張する赤黒い不吉な渦の前にたどり着いた。

「ついたぜ……この先にターゲットがいる」

「つしや、気合い入れてこうぜ！」

渦の中に飛び込むと、40後半程の女性が立っていた。

髪の毛は雑にまとめられただけで、白いシャツはわずかに黄ばみシワまみれで距離があるため臭いまでは解らないが決して清潔とは言えない。

なにやらぶつぶつと独り言を言っているターゲットへ接近する。

「エニシダ様……エニシダ様が救ってくれる。私を理解してくれる……でもエニシダ様への面会にはお金が足りない……早くお金を早く」

「だからって家族殺してまで金が欲しいのかよっ」

「エニシダ様だかなんだか知らないけど、そんなものにすがって本当にあなたが救われることなんてないわ」

「うるさいっ！うるさいうるさいうるさいうるさいっ！エニシダ様の素晴らしさがわからないこそ泥なんて死んでしまえ！」

「来るぞっ！」

シヤドウが本性を表して襲いかかってきた。

しかし、メメントス攻略もパレス攻略も乗り越えてきた今の怪盗団の敵ではない。

適切に弱点をついて総攻撃をかけると、もはやターゲットは耐えられなかったのか呻き声を上げながら泣き言を繰り返した。

「エニシダ様は……私のことを見てくれた！誰も見てくれない私のことを！」

「本当に誰も見てくれなかったのか？」

ジョーカーが冷静に問いかけると、ターゲットは一瞬はつとしたような顔をして青ざめる。

続いて畳み掛ける真の言葉に、もはや抵抗の意思は完全に折られたようだった。

「旦那さんも娘さんも居るんでしょ？一度でも貴女の悩みを打ち明けてみたことはあった？」

「……う、うう……ごめんなさい、ごめんなさい、あなた……ゆみ……」

なぜターゲットがあそこまで追い詰められたのか、詳しい事情は解らないが消えるときの様子からして改心させることに成功したと見ていいだろう。

後は三島からの連絡を待つだけだ。

他にターゲットは居ないため、今日はもう引き返すことになった。

帰りの車内にて、フォックスがふと声をあげる。

「エニシダはもしやあのエニシダか」

「あ？お前なんか知ってんの？」

運転しているジョーカー以外の全員から視線を向けられながらも、マイペースに続けるフォックス。

「以前、怪盗お願いチャンネルで改心の依頼があつたのを見たことがある。今回のメジエドからの宣告がなければエニシダはどうかと提案しようと思っていた」

「さっきの人の感じと依頼内容からして、そのエニシダって人は新興宗教の偉い人なんでしょ？」

「ああ、ホームページを見たところ教祖らしい」

「うわゝ悪の教祖とか、いかにもって感じだな」

「写真とかあるの？」

「いや、非公開だ。代わりに教団の運営をする夫婦の写真はあつたが」
盛り上がる会話を横目に聞きながら、シャドウを引き倒す。

宗教には詳しくないが、そういった団体を立ち上げるような人間が顔写真を乗せないのは珍しいのではないか。

何かしらのリーダーとなるという事はある程度自己顕示欲が強そうないメージをな

んとなく持つていたが違うらしい。

そのような印象を抱くのは王を名乗ったカモシダ、金と名声を求めたマダラメ、マフィアを自称するカネシロと今までのパレスの主が軒並み主張が強かったからかもしれない。

そのエニシダはターゲット心から心酔されるような何かがあることは間違いないだろう。

ユーザーが限られる怪盗お願いチャンネルに複数上がるという事は、想像以上の被害者がいるということになる。

そこまで考えたとき、発見されそうになったシャドウをなんとか引き倒すと雑念を振り払い運転に集中した。

メモントスを出て電子機器が復活したら少し気になっていたので怪盗お願いチャンネルを開く。

あまり蓮自身が怪盗お願いチャンネルを見ることは少なかったが、もしかしたら見逃していたかもしれない相手ということもあり少し気になっていた。

「えーなになに、悪徳宗教法人幸福の輪？うわっリユージじゃねーがいかにもってかんじだな」

幸福の輪に行ってから知り合いがおかしくなった、多額の金を使い始めて借金を重ねている、何度も一緒に行くこうと誘われるなど、今回のターゲットのような例は複数上がっているようだ。

しかし他のいたずらのような書き込みに紛れ、そう目立つものでもなかった。

その中の一つに毛色が違う依頼が一つある。

幸福の輪の悪魔エニシダアクトを改心させて信者達を救って欲しい

ただ一言だけの依頼。

しかし唯一違うのは具体的な人名が出てきたこと。

「エニシダアクト……？もしかして、噂の教祖様の名前か？」

「かもしれない」

裕介がホームページがあると書いていたのを思い出すと、幸福の輪で検索する。

あまりHPに長けたものが作ったものではないのが一目で解るレイアウトは、本当に些細な個人的なHPのように見える。

HP内でエニシダアクトを探すが、出てくるのは教団の管理者の縁田史夫、縁田明子の名前くらいだった。

エニシダアクトという名前が顔のない教祖のものである可能性がぐんと上がる。

「イセカイナビで検索してみるか？」

「ああ」

イセカイナビを起動してエニシダアクトで検索してみる。

『目的地は存在しません』

無機質な音声ガイダンスがエニシダアクトのパレスがないことを告げる。

「エニシダアクトにパレスは無いのか……となるとメモメントスか？」

うなるモルガナを横目にもう一度イセカイナビを立ち上げる。

「縁田史夫」

イセカイナビは反応しない。

無いとも言わないナビに、直感的に足りないのかもしれないと付け足す。

「縁田明子」

『目的地が見つかりました』

「!?二人で一つのパレスってことか!？」

「そのようだ」

「みんなにも一応伝えたほうが良さそうだな」

本当にエニシダのパレスを攻略し改心させるかは別として、情報の共有だけはしたほうが良いだろう。

二人で一つのパレスという変則的な事態だ、今後も同じような事が起こる可能性がけ

でも視野にいれておくべきだ。

S N Sを立ち上げると、明日の放課後の集合を連絡した。

虎児を得るためには

メンバーを呼び出して昨日の一連の発見を報告する。

やはりというか、今までにない事態にみんな驚きを隠しきれない様子だった。

「二人で一つのパレス!？」

「なんだよそれっ」

真っ先に反応したのは他のメンバーより怪盗歴が長いからこそ、あり得ないという先入観を持ちやすい二人。

パレスの事について最も詳しいのはモルガナだと理解しているため、二人とも思わずモルガナを見る。

「可能性としては二人の認知が完全に一緒か、または同じ場所にパレスを作っているとこうなるのか……こんなことワガハイも初めてであまりはつきりとは言えないのだが……」

「なんだよ使えねーな」

「こらっリユージ！」

モルガナも知らないということとは本当に誰も知らない事になるという苛立ちからか

つい漏れた言葉に即座に杏が反応する。

何時ものことだとこのまま脱線する前に話を戻す。

「今日の主題は、このパレスの主はメジエドへの解決の糸口になることはないだろうし、知名度も低い。それでもやるか、だ」

些細な言い争いに発展しかけていた二人も裕介も真も、揃って固まった。

そう、エニシダのパレスは極端な話無視しても問題がないのだった。

確かに被害者は居るだろうが、今はXデーという強大で明確な危機がある分、そちらを優先するべきなのではないかという思いもある。

全会一致の掟もある、一人の感情で勝手に決めることはできない。

見捨てるか、見捨てないかその選択を話し合うために集合したのだった。

最初に口火を切ったのは杏だった。

「メジエドのことを優先しないといけないことは解ってるよ……私たちだけじゃなくて沢山の人に迷惑かけるかもしれないから」

それでも、と続きそうな言葉を引き継ぐように竜司が続く。

「……でもよ、知ってるのに優先度が低いから見て見ぬふりするってそれじゃあオレらも学校のやつらと同じになっちまうじゃねえか！」

鴨志田の事を放置した大人やバレー部員と同じになると、嫌悪感を露にする竜司。

俗っぽい所もあるが、反対に妙に潔癖な所がある竜司らしい言葉。

「正直今の俺たちにメジエドのことについて出来ることはないと思っている。双葉にかけるしかないのなら、無駄に日にちを浪費するのではなくもつと活用してもいいのではないだろうか」

冷静に現実を示し、それでもと可能性を提示する裕介。

「そうね……闇雲に時間を使うくらいなら双葉の言葉を信じて、私たちは私たちにできることをするべきかもしれないわ」

「一つ年上だからかメンバーの中で一番大人に近い目線で思考できる真だが、反面熱いところがあるのはみんな知っている。」

「蓮」

モルガナがじっと見つめてくる。

「ああ、行くこう」

知らせた時点でこうなるだろうと薄々思っていた。

それでも知らせた蓮だって、結局は見過ごせなかったのだ。

「おっけー!」

「そうこなくちやな!」

「もちろんメジエドの対策探しも止めないわよ」

「ああ」

盛り上がるメンバーに釘を刺す真。

こうと決めたら一直線なメンバーが多い怪盗団にとって頼もしい存在だ。

パレスの攻略をすると決めたらまず浮かんでくる問題がある。

「と、いつてもまずはキーワードからなんだけどな」

「宗教だろ？俺全然詳しくねえんだけど」

「本人のパーソナリティに関係あるもの、かしら？」

「鴨志田が城、班目が美術館、金城が銀行、双葉は墓と……あまり法則性がないな」

「分かりやすいものもあるが、双葉なパレスは本人の発言がなければたどり着く事ができなかつた。

「こないだのメモントスの感じからして、お金を欲しがっているっていうのは解るけど……」

「とはいっても金城ほどのものは感じないかな」

「ちよつとアプローチを変えてみましょう。宗教にも種類があると思うけど……幸福の輪は既存の宗教の派生ではなく独自のものみたいね」

「宗教的なモチーフといえば、まず思い浮かぶのは天国と地獄、楽園等だろうか」

「裕介……お前そういうえば画家だったな」

「そういえばではない、画家だ」

「こーら話が反れてるわよ」

脱線しながらもキーワードを試してみるが、なかなかヒットしない。

「あーっもうわっかんね！大体いつもは何だかんだパレスの持ち主に会ってからやってくるのに知りもしない人間の欲望なんて解るわけねえだろ！」

「そう短気を起こさないでよ」

「でも……確かに私達、相手の事も知らずに当てられるほどの経験は無いわ。なんとか会う手段はないかしら」

「虎児を得るには……というやつか」

新興宗教、と聞いてしまうと思わず尻込みしてしまうのが日本人的感覚だろう。

それでも蓮達は知りもしない人間のパーソナリティなど想像で当てられるような専門家でもないからこそ敵地に飛び込む必要があるかもしれない。

情報収集で開いていた幸福の輪のサイトをスクロールする真。

「基本的に、紹介によつて知るパターンのようだな」

「サイトによると、一回目は無料で面会できるみたい」

「だが教祖はパレスの主ではないぞ」

「でも他に何かコンタクト取れそうなどこもないぜ？」

「手詰まりだし……とりあえず行ってみようよ」

こうして、怪盗団は幸福の輪に向かうことになった。